

住警器の有効性

日本消防検定協会では、住宅用防災警報器（以下「住警器」という。）の作動状況等をもとに設置効果等を検討するため、一般財団法人全国消防協会に委託し、次のとおり調査研究を行いました。

令和7年度調査研究

「住宅用防災警報器の作動状況等に関する調査研究」

目的

住宅火災における住宅用防災警報器（以下「住警器」という。）の作動状況等を調査し、住警器設置に係る効果を検討することで、住宅火災対策の提言に繋げることを目的に、一般財団法人全国消防協会に調査・分析を委託して行いました。

調査対象

令和6年（2024年）1月1日から同年12月31日までの期間において住警器設置義務対象物で発生した住宅火災で、かつ住戸内のいずれかの箇所に住警器の設置が認められる火災。ただし、次に該当するものは除く。

- ア 出火原因が放火（疑い含む。）であるもの
- イ 出火箇所が不明であるもの
- ウ 住戸外からの火災

調査方法

全国の消防本部に対して、「住警器に関する調査シート」を用いて調査対象火災における「出火室」と「出火室以外」における住警器の作動状況等について調査する方法による。

調査対象件数

2,360件

調査結果の一部を皆様にご紹介するとともに、住警器のメンテナンスを日常より実施いただき、住警器の有効性をより高めていただきますようお願いいたします。

住宅用防災警報器（住警器）の作動状況等に関する調査研究報告

1 住警器別の焼損程度の内訳

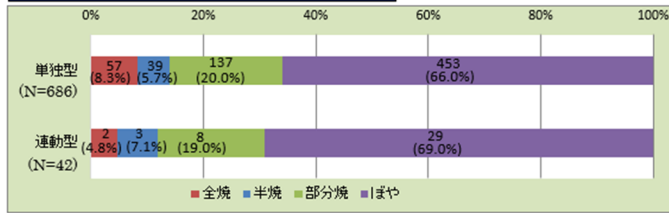


図1 住警器別の焼損程度の内訳 (N=728)

出火室に設置された住警器の単独型、連動型の別で確認できた火災728件について、それぞれの焼損程度の内訳は図1のとおりで、部分焼及びほやの割合が、単独型及び連動型ともに85%を超えている。

2 出火室に設置された住警器の点検状況

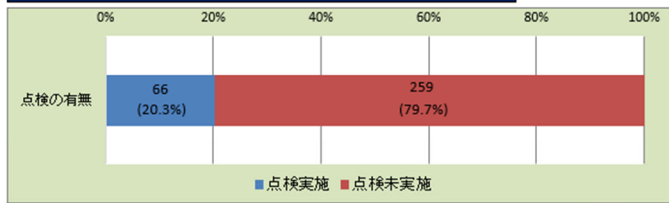


図2 出火室に設置された住警器の点検状況 (N=325)

出火室に設置された住警器の点検状況を確認できた火災は325件でありその状況は図2のとおりで、約8割で点検が未実施であった。

住警器を設置していれば、焼損程度を小さく、被害を最小限に抑えることができます。
住警器の点検未実施が多いことから、点検を行い、不具合があれば、住警器本体を取り替えるなど**メンテナンスを行いましょ**う。取り替えには、出火した住戸内だけでなく、出火した住戸外でも、鳴動音が確認できて、火災の早期発見に繋がり、付加価値のある連動型住警器の設置を推奨しています。

住警器のメンテナンス方法はこちら！！

当協会ホームページでの住警器メンテナンスに関する動画コンテンツのご紹介

「住警器の仕組み等について」

住警器の種類及び仕組みについてご紹介しています。

[動画はこちら](#)

火災の発生を知らせる住宅用火災警報器の仕組み



「住警器のメンテナンス方法等について」

住警器設置の際の注意事項、メンテナンス方法、警報が鳴った場合の対処方法をご紹介します。

[動画はこちら](#)

住宅用火災警報器の取り付け方と音が鳴ったときの対応

